

第二四六回ペン川柳会

令和六年十一月二十五日

お題 「手」

■ 西川（醉雅）  
すいが

手を焼いた子供に今は手を引かれ  
手の皺が分からぬくらい目も見えず

■ 三春（火酒）  
ウオツカ

手切れ金払う女と泣く男  
中東戦イエスもアラームもお手上げた

■ 八木（明迷）  
めいめい

アンコール拍手よ止まれ帰れない  
左手のリング外して無重力

■ 浜田（我々好）  
ウイスキー

悪手だね選挙さなかに二千万  
株買えと手練手管に乗ったバツ

■ 山縣（安兵衛）  
やすべえ

仮名手本思いを込めているろは歌  
ふたり旅手に手取り合い網島へ

■ 稲宮（井波）  
いなみ

手遅れか保険加入に宝くじ  
手の内は我田引水MAGA旋風

■ 安藤（晃二）  
てるつぐ

泥足に母の手ピシヤリ速きこと  
一手間やガラス戸を開けチチ口聴く

■松谷(零門)  
れいもん

書くことをサボり続けてタコ消えた

闇バイト手段選ばず金取らす

■大野(だし)

近頃は口は遅いが手は早い

神の手とだます相手は若後家さ

■塚田(拿々)  
だだ

若い頃何度も食った空手形

この頃は間違い多く手綱締め

世話人 塚田 實(拿々)  
だだ